

北海道立文書館 古文書教室

道庁「赤れんが」庁舎にある開拓使や北海道庁の公文書など北海道にかかわる歴史資料を収集・保管する「道立文書館」の出前講座です。

筆で書かれた近代の「くずし字」をやさしく解説。
「くずし字」が読めると地域に残された近代資料も読めるはず。

日時：10月17日（土） 10時～15時
場所：文化交流センター
講師：宮崎美恵子氏（北海道立文書館）ほか
内容：午前「はじめての古文書」
午後「花田家文書からみえてくるもの～明治初頭の
鬼鹿と花田家～」
※昼食は各自ご用意ください。

申込み：10月16日（金）まで
参加料：無 料
定 員：30名 ※本教室は「道民カレッジ」連携講座で、
希望者は単位認定（4単位）が出来ます。

担 当 文化交流センター（長澤）



花田番屋の親方の家に残された古文書

小平郷土資料通信 No.49

メタンを食べる生物の化石 小平町からの新発見 1

東京大学海洋研究所特任研究員
ジェンキンズ ロバート

小平町は化石の宝庫です。白亜紀という恐竜時代の海に住んでいた生物である首長竜やアンモナイトなどの化石が豊富に産出することはご存じのことと思いますが、中には非常に変わった生き方をしていた生物の化石も見つかります。メタンを食べる生物の化石です。

現在の日本周辺の海底からは多くの場所でメタンを含む水が湧いています。これをメタン湧水と呼びます。メタン湧水では、メタンが海底から海中に直接噴出したり、メタンと海水中の硫酸と反応して硫化水素が生成されたりします。硫化水素などは、化学反応でエネルギーを得る化学合成細菌のエネルギー源となります。そして、この化学合成細菌を中心として生態系、つまり、化学合成生態系がメタン湧水域に形成されるのです。この生態系には、シロウリガイ（二枚貝）やチューブワーム（ハオリムシ；ゴカイの仲間）などの化学合成細菌を共生させた動物も含まれます。つまり、彼らは地球内部から湧き出すエネルギーに依存し、我々が太陽に依存した光合成生態系に属しているのと対照的です。

普通の深海域は、生物が極めて少なく、深海砂漠と呼ばれるほど荒涼とした世界が広がっていますが、メタン湧水周辺は、まるで深海のオアシスのように生物に満ちた世界なのです。

小平町の白亜紀メタン湧水とメタン湧水に生息していた化石群集は達布の奥記念別川（金尻沢）沿いから発見されました。奥記念別川沿いには白亜紀のやや深い海に堆積した泥が固まった泥岩が広く分布しています。この泥岩の中に一カ所だけ、突然1m以上の大きさの炭酸塩岩（炭酸塩岩とはカルシウムと炭酸が結合してできた岩石。サンゴや貝殻も同じ成分）がいくつも含まれている場所があります。この炭酸塩岩こそ、白亜紀当時のメタン湧水の痕跡なのです。この岩石の中には、30cmに達する大きなツキガイ科二枚貝が含まれています。ツキガイの仲間は、現在でもメタン湧水などの硫化水素が充満した環境で繁栄している二枚貝です。巨大なツキガイ科二枚貝の他にも数多くの二枚貝や巻貝がこの岩石中から発見されています。（次号に続く）



奥記念別川（金尻沢）の現場で説明する
ジェンキンズさん



巨大二枚貝化石（ツキガイ科ニッポノスラシア）の断面